

作東の文化

No.44



日本画 寺 師 喜代美

平成30年10月

作東の文化

No.
44



作東文化協会

目次

巻頭言

〔回想〕真野が原の四季……春名貞和……………1

特別寄稿

あかまつのおばさん……………横山 猛……………3

所感寸言

外来種……………井上健一……………6

気になる日本語―「す・ごい」の使われ方

内藤善晴……………7

随筆随想

趣味と私の人生……………安東公一……………10

備後落合駅……………岩本全子……………11

私の中の宮本武蔵……………浅田年史……………12

今日の予定……………大谷照夫……………13

二十年後はこんな村？……………鳥形初美……………15

歴史紀行

高原池の歴史……………井口祥子……………18

勝田天山弥生壇丘墓に思う幕中

春名倫子……………20

天皇の称号について……………井上健一……………22

視察研修旅行記……………山本進一郎……………23

短文芸

俳句

花冷……………山本邦実……………26

伊予柑……………春名はるを……………26

大かぶ……………青山美和子……………26

すみれ草……………井口祥子……………27

折折に……………沖田はるみ……………27

折にふれ……………杉本幸子……………28

花見……………高橋ヤエ子……………28

すみれ草……………樽井千草……………28

桐一葉……………豊田絢子……………28

春……………春名静山……………29

妻……………阿北斎……………29

合歡の花……………山本真由美……………30

夏……………丘乃雀……………30

題字

真野みよ子

表紙写真

題「秋」
井上美智江

表紙説明

題「秋」
山ごぼうが今年もとてもきれいにはえていましたので書いてみました。
しんわ美術展で市長賞を戴いた絵です。

野の花	山本靖子	30
珊瑚樹	坂井はつ子	30
川柳		
金字塔	春名静山	31
短歌		
夫よ	角利津	32
光	黒石登代	32
季のすぎゆく	長澤和枝	33
野の花	中山昌子	33
青空	日下智加枝	33
何やら嬉し	浜田くに子	33
何はともあれ	入矢敏江	34
追憶	山下光子	34
折々に	佐々木美奈子	35
曾孫一周年	山下照夫	35
「反覇」と「世界市民」	加藤芳英	35
折りにふれ	杉本幸子	35
秋の雲	森本久子	36
散る桜	名部みどり	36
乙女	丘野道子	43
弟	福島美智子	43
思ふがままに	春名倫子	43
大水	三浦智江子	44
問はざるままに	関内惇	44
作東文化協会グループ紹介		45
平成29年度 作東文化協会事業報告		49
平成29年度 作東文化協会決算報告		53
作東文化協会会則		54
平成30年度 作東文化協会会員・役員名簿		56
編集後記		66

故郷の海	鳥形多津枝	36
お別れに	井上さかゑ	36
山里にて	大内佐智	37
前を向いて行け	藤本伸子	37
剪定	内藤慶子	38
冬の日に	松井洋子	38
冬の佐用霧	坂井はつ子	38
春夏秋冬	中村千州代	38
梅干とお粥	岡田仍子	39
変りゆく	宅美とみ子	39
古希を迎へて	平瀬芳子	40
山里に暮らして	渋谷友香	40
家族	土井つゆ子	41
生き生き人生	有元理嘉子	41
雑草	豊田絢子	41
羽撃く族	黒石初江	41
重荷	小林洋子	42
峠の鶯	新田千晶	42
歌の種	末宗玲子	43



墨絵 大寺美保子

〔巻頭言〕 回想・・・真野が原の四季

会長 春名貞和

本年三月、出雲大街道土居宿四百年、姫新線全通八十年の石碑が建立された。姫新線と旧出雲街道（出雲往来）に囲まれるように、土居小学校はあり、窓からその石碑が眺められる。私は六十五年前にこの学舎を卒業し、奇しくもこの母校で定年退職させていただいた。本年、喜寿を迎えるにあたり、典型的な田園風景の中にある真野が原（土居盆地）を通して、学校、子ども、自然のうつろい等を回想してみたいと思います。

・三月 真野が原にも春が走り始めました。ふきのとうが顔を出し、山家川のせせらぎも心地よいリズムを刻んでいきます。そして、校庭をそよがせる春風の中に、教室から、卒業呼びかけの音が流れて行きます。

・四月 真野が原の空を春の雲が流れていきます。子どもたちの明るい声が、校庭に響き、私の心を和ませてくれます。小川のせせらぎは優しく歌いヒメオドリコ草は春風に揺れています。

・五月 大自然の絵の具は薄い黄緑色を山々にふりまき、時折吹く青風は木々をそよかぜで通り過ぎ、鯉も悠然と空に舞い踊る、さわやかな季節が訪れました。子どもたちもこの環境の中ですくすくと育っています。自然に子どもを放ち、遅く育てましょう。

・六月 夜の闇がその深さを増し、辺りにはほんのりと霧が立ち込めています。夜気にあたりたいと外に出ってみました。蛍が闇をかすめて二つ仲良く舞っています。甘い水はもう飲んだのでしょうか。

・七月 田のほりでは、ネジバナが小さなピンク色の可愛い顔で、風に揺れてあいさつを送ってくれる。

一年生の育てている朝顔が赤や薄紫の花を少しずつ開き始めた。二年生の植えた、稲の緑も鮮やかである。

・八月 残暑の中で強い雨足が走っている。夏の終わりに姿を見せるキツネノカミソリの橙色と百合の中では一番遅く顔を見せるタカサゴユリの白が、濃緑の中にことのほかまぶしい。辺りのカナカナの音が風に乗る。

・九月 台風一過、真野が原に爽やかな秋の風が通り過ぎていく。野山に栗がはぜ、萩や彼岸花も盛りの中で、稲の収穫が進んでいる。私たちも子どもたちの豊かな「実り」の実現に向けて頑張っています。

・十月 文字どおりの自然歩道を通ってみた。道の草はきれいに刈られており、旧出雲街道を愛する人たちの息吹が仄かに伝わって来るようだ。道にはノコンギク等が秋の装いをさりげなく演じている。

・十一月 校庭の銀杏が散り始め、晩秋の色が濃くなってきました。山々の紅葉があでやかで、まさに季語にある「山粧う」の感じですね。野の草も紅くなっています。これを「草もみじ」といいます。

・十二月 園児たちは、もちつきべったんの歌を大きな声で歌いました。大人のつく柝の音に合わせて「べったん、ベッタン」という可愛い声が、だんだんと晴れ上がっていく、真野が原の冬空に流れていきます。

・一月 一階の廊下で寒そうにしていたカニサボテンを校長室に連れてきました。すると、ピンクのつぼみが華やかに開いて私の目を楽ませてくれます。植物の育ちは大きく環境に左右されます。学校、家庭、地域で児童や園児のために優れた環境を互いに力を合わせて作っていきましょう。

・二月 災いをはらう願いを込めて幼稚園に明るい声が元気に響く。「鬼は外、福は内」。園児は鬼のお面をつけて豆まきに参加している。一人ひとりが明るく健康で、素直な子どもに育っていくことを、日々願っています。

特別寄稿

あかまつのおばさん

特別顧問 横山

(歌人) 猛

昔、近所に「あかまつのおばさん」と呼ばれる方が住んでおられた。赤松医院の奥さんだったが、医師の御主人が亡くなられ、大きな家に独り住んでおられた。

地域の人々の信頼は厚く、国防婦人会の会長をはじめ、いろいろな役を引き受けておられた。特に、子供達の面倒をよくみておられ、大勢の子供が遊びに行つたものである。

今でも強く印象に残っているのはカルタ取りで、中でも「百人一首」は忘れようにも忘れられない思い出である。たしか、尋常高等小学校一年生の時だったと思うが、最初に厳しく教わつたのが、百首中、頭文字がむ・す・め・ふ・さ・ほ・せの歌は、それぞれ一首しかないの、「直ちに覚えなさい。」と言われて、必死で覚えたものである。その歌とは、次の七首である。

87 むらさめの露もまだひぬ真木の葉に霧たちのぼる

また、読み上げ方も長調的で、子供心にも楽しめたものである。(今でも、読み手になった時は、あかまつのおば

秋のゆふぐれ

寂蓮法師

18 住の江の岸による波よるさへやゆめのかよひ路人
めよくらむ 藤原敏行朝臣

57 めぐり逢いて見しやそれともわかぬまに雲がくれ
にし夜半の月かけ 紫式部

22 ふくからに秋の草木のしをるればむべ山風をあら
しといふらむ 文屋康秀

70 さびしさに宿を立ちいでながむればいづくもおな
じ秋のゆふぐれ 良暹法師

81 ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月
ぞのこれる 後徳大寺大臣

77 瀬を早み岩にせかるる滝川のわれても末にあはむ
とぞ思ふ 崇徳院

桜の光あはく覆へる忠魂碑に父の名ありて戦争香し

松浦美智代(林野)

花柄のカーテンに春の光り揺れ老い忘れて髪梳く朝
井上さかゑ(能登香)

寒ぞらに何やら光るものあれば鳥が攫ひしわたしのハ
ートだ 江見真智子(三河)

胸に抱く写真の父に見せやらむ陽光きらめく眼下の瀬
戸を 北原 啓子(鶴山)

光るたびボタンを押して視野検査あはれわが目よ現状
維持す 浜村真佐子(千里)

大霜の朝を陽は射しきらきらと光はをどる野面の上を
新田 千明(吉野)

トンネルを抜けなば光ありと信じて過して九十四歳と
なる 船曳 文子(英北)

生かされて病を得ても老二人互ひを光となして生きゆ
く 内藤 幹江(赤坂)

限りなく寄する吉野の川波に光ましゆき春の立ちくる
神崎 蘭子(英田)

あれから七十年近く経ってしまったが「あかまつのおばさん」は、今でも天国からじっと見守って下さっていることであろう。

さて今年も去る四月十二日(木)に、第七回文芸愛の小径短歌大会を開催した。題は「光」。応募者九十九名。選者賞は次の十首である。

朝の陽の光やさしく差し込みて手作りしひなの頬をて
らせり 小川 律子(赤北)

所感寸云

感想や批評を文章で表現する

簡単そうで難しい

しかし文章化されることで

新たな感想や批評が生まれる



ちぎり絵 香山満寿子

外来種

井上健一

先日テレビを見ると、動物や植物の外来種が繁殖し、日本の古来種が大幅に減少している。と言う話をしていた。

そういえば、野生のキキョウやオミナエシ等のように万葉集等をにぎわせた草花が姿を消し、セイダカアワダチソウ等が急激に増加している。これらの種は鳥や獣によって運ばれて来て繁殖環境が良いので、大繁殖したようだ。

沖縄の方のある島では、外来種の動物も異常に繁殖しているようだ。イグアナやクジャクまで繁殖しているようだ。本来日本にはいなかった動物が、なぜ野生化して日本にいる

のだろうかと考えてみると、こんなことが考えられる。輸入品の荷物に紛れ込んで入ってくる物や、輸入した動物に紛れ込む場合もある。例えば、戦時中に毛皮を確保するために持ち込まれたヌートリアに紛れ込んで入り込んだとされているマスカラット等がある。

最近特に多いのは、ペットとして輸入されたが、飼い主に飼育放棄をされた動物が野生化し、どんどん繁殖してしまったケースもある。ペットの種類はべらぼうに多い。

これらが野生化し繁殖を繰り返すのだから、駆除が追いつかないのが現状だろう。

話は少し変わるが、数年前までメス鹿の駆除が禁止されていた。鹿がかなり増えて、林業や農業に深刻な影響が出てきたところで、メス鹿の駆除も可能になった。

自ら確かめた訳ではないが、数年前に熊出没の情報を聞いた人が、「熊を殺さないで…」と言う手紙を添えて、現金か、品物かは知らないが送付してきた人がいると言う噂話を聞いたことがある。その時、「そんなら熊を捕らえた時に、お宅の庭に放しませうので管理してもらえますか」と尋ねたらその方はどんな反応をされたのだろうか…。

同じ数年前に自らの財産を使い、広大な山地を熊の保護区にされた方があるとも聞いた。ここまでされる方が、保護活動を

されるのなら敬服もするが、いい恰好だけでやられると、野生の恐怖におののく方々には、大迷惑にしかないのではないかと思う。



気になる日本語 ——「すごい」の使われ方 内藤善晴

「雨がすごい降ってきた。」
「すごい感謝しています。」

こんな言いまわしが最近特に耳につくようになった。ちよつとおかしいとは思われませんか。

去年の七月七日のNHKテレビで、美作大学生たちが浴衣と甚平姿で受講したというニュースが放映された。平成五年から毎年実施しているもの

で、二十年以上も続いているのだとか。

その時のインタビュウの場面で、「朝からすごいわくわくしていました」と話す学生がいた。その時の字幕には「すごい」は「すごく」と訂正されていた。

七月十六日には、「きようは、すごいうれしかった」と言う男の子が、翌

十七日には、いかの試食後のインタビュウで「すごいおもしろかった」と言う人が登場していた。

その後いつだったか覚えていないが、テレビを見ていた時のこと。激坂を父親と自転車で制覇した時の少年の声——「どんな気分ですか」に対して「すごいいい気分です」「またやってみたい気がありますか」に対して「すごいあります」との言葉。この時の字幕には「すごく」と、さりげなく訂正されていた。

「すごい」を辞書で調べてみると、「形容がたいほど素晴らしい」とか、「程度が並々でないことを表す形容詞」と言う説明がある。そうしてその活用は、語尾の「い」の部分が次表のように変化する。

未然形	未だ	未だ	未だ	未だ	未だ
連用形	かっ	かっ	い	い	い
終止形	か	か	い	い	い
連体形	か	か	い	い	い
仮定形	か	か	い	い	い
命令形	か	か	い	い	い
	(ウ)	(タ) (用言)	(〇)	(体言) (コト・モノ)	(バ) ↑(続けてみる言葉)

それでは、どうしてこのような使われ方をするようになったのか、自分なりにちよつと考察を加えてみた。文中の「すごい」に続く——の部分には、すべて用言（動詞や形容詞など）を修飾しているのだから、当然連用形の「すごく」を使うのが正しい。また「すごい」は体言（名詞や代名詞など）の前に使われていないから、連体形の方ではなくて終止形の方だろうと思われる。——の部分の表して

いる動作や性質・状態などの程度が並々でないことを強調するために、敢て終止形の「すごい」を先に出している表現法だろうと思われる。今のところ、決して正しいとは言えないが、その気持ちは私にもわからないではない。



写真 小坂田 貢

随筆随想

おりにふれて

感じたことや

見聞・体験を

なにくれとなく

書き綴る

思いのままに



書道 北村石舟

趣味と私の人生

安東公一

第三の趣味、海外旅行について前回まで述べたが、今回は第二の趣味ガーデニングである。特定郵便局長をしていた祖父は菊づくり、父は果実の木を植えるのが好きだった。その遺伝でか私も花作りに興味をもっていた。妻は山野草の会に行っていて採集してくると、いつも植えるのは公一の役だった。そして海外旅行が趣味だったのでヨーロッパの石畳に魅力を感じ、我が家の和風の庭にレンガを敷き、自分好みに仕上げたりして楽しんでいた。

妻が亡くなる前、還暦旅行で十八日間のヨーロッパに出かけた。イタリアのミラノで一日のフリータイム

があった。その時妻が「公一さんここから行けるいい処はないの」と言うので「タクシーを雇い、フィレンツェは最高だよ」と言うと「折角だから行きたい」と言う。

だったらと英語のできるオーナードライバーを雇い、朝七時出発でフィレンツェへ向かう。ミラノからフィレンツェまで高速道路を時速二百五十キロのスピードで走る。

延々と続くオリーブ園、オリーブの下を見ると人々が三々五々何かしているではないか、ドライバーに聞くと、「あれはオリーブの下に生えている自然のマッシュルームを引いているんです」とのこと、そこでドライ

バーに頼み三十分位、止めてくれなにか」と頼みOK、妻と高速道路を駆け下りてオリーブ畑に行き、彼らと一緒に日本の五倍ぐらい大きいマッシュルームを引き、本当に楽しい思い出をつくった。それからまた二百五十キロのスピードでフィレンツェの町が一望できる小高い山の古城のレストランにランチの為に向かう。

この時から十年後、妻に先立たれ、寂しさに耐え兼ねた時、何かしないと意図したのが、オリーブ園の妻の記念の庭園だった。洋風の庭師さんを捜し、私の希望を述べて白い漆喰の変形壁と周り花壇を作り変形レンガで広場を造り、銅製のテラスを置き銅製のバラのアーチを作るというものでした。洋庭師さんは広場は備前から特注の変りレンガが使用さ

れ、焼きの畑もセメントの細道が作られ、野菜栽培もガーデニングとして楽しめるようにでき希望通りできた。また、石材店で、「千の風にのって」卓子の千の風庭園」と彫り込んでもらった自然石を設置した。あとは思い出のオリブをたっぷり植え、その下に四季の花々を植えた。今はオリブがなるのを楽しみにしているが、白い花がいっぱい咲き昨年から楽しみの実もなりだし喜んでいて妻が本当に喜んでいて私にはわからない。でも公一さんは卓子さんが千の風にのって庭園のベンチに来てるように思えてならない。

朝夕、ジミーと散歩して、ジミーを丸いテンプルに乗せ、卓子と三人でたわいない話をしている。ジミーとは妻のために買ってやったチワワ犬

た。夏には「道後山」もすばらしく、冬は大雪でラッセル車に父が乗っていました。いつも「自分の足で歩いてみたい」といってゲートルをまいて、いつも線路を歩いていましたね。丸い戦時中の水筒を下げて頑張っていた父の姿を思い出します。

上の学校に行きたかったけれど貧乏なので行けなかった父は、姫新線開通で縁あって国鉄に入り、トントン拍子に認められ分区分長まで上がってきました。私が高校入学した時には、それはそれは大変よろこんでいました。私もその父に報いるため、夏休みにはよく出かけて娘として楽しい毎日でした。

いろいろな場所に行きましたが、備後落合は私にとつて忘れられない場所です。今は昔、あの頃の栄光は何

のことである。今では私の最愛の愛犬である。また銅製のアーチはピン

備後落合駅

岩本全子

七月一日夏、晴れの朝私たち三姉妹は末妹のご主人の運転のもと二十年ぶりの一生忘れられない「備後落合駅」をめざして津山インターから中国道を、はるばる東城をめざして下りました。備後落合ってそんなに重要な？と思っして下さい。

私は大学二年生の夏、父が備後落合線路分区長でした。官舎はありますが母は家を守るため、時々しか行っていないせいでした。いつも自炊の生活なので、せめて夏休みには私は一週間くらい行って、料理を作っ

クのパラでいっぱいです。

八十三歳の独り言：なり。

たり、津山くらいの大きな駅なので、はい煙でたみが見えなくなったり、毎日のように拭いていました。物資部といってお店もあり、線路ホームも津山くらいありました。機関区、車掌区、線路分区、駅と津山くらいの場所でした。官舎も沢山あり、まだ洗濯機があまり普及していない頃なので、官舎の中央くらいの井戸の所には官舎の奥様たちが、楽しみに語りながらの風景が見られました。前の川の流れは心地よく耳に流れて、奥深い岩間のすばらしい駅と思っ

一つなく、民営化により駅舎のみになっていました。でも私はあの頃の父に対する感謝の気持ちを一筆書いてみたくて筆をとりました。本当にありがとうございます！

私の中の宮本武蔵

浅田年史

宮本武蔵について格別興味があり研究しているわけではありませんが、ふとしたことから宮本武蔵顕彰会に入ることになりました。宮本武蔵は私たち郷土の者にとっては身近な存在でした。祖父と囲碁を打っている

と、祖父は決まって武蔵の本や新聞の切り抜きを持ってきて、読んでおくように言いました。小学校の運動会ではプログラムの最後に武蔵踊り

駅のノートにも今の気持ちを記して帰りました。川の流れ、山の太陽の美しさ、人のあたたかさを私は再認識した尊い旅でした。

を、児童、教職員、父母、地域の人全員で踊り、会を締めくくりました。「わしはざいしよのむさしさんはえらい」という単純なこの踊りはダンスの苦手な私が唯一、なんとか踊れる踊りなので、武蔵に親近感を覚えました。

故郷を離れて生活をしてきた頃、宮本武蔵に関する質問をよく受けました。宮本村出身と言うことでよく

知っていると思つたのでしよう。顕彰会の研修旅行の旅先でもいろいろと尋ねられました。そのたびに武蔵について知っているつもりを私を反省させられました。

先日、我が家の前の道に若いアメリカの男性が武蔵の墓を訪ねてやってきました。標識がわかりにくく、道に迷つたようです。二十代後半と思える彼は、武蔵の本を読んでからはアメリカからやってきたのです。宮本武蔵の生誕地をぜひ見ておきたいと言ひ強い思いが伝わってきました。宮本武蔵の本は海外でもよく読まれ、様々な国から武蔵の里にやってきました。

でも、今武蔵の里は心配です。武蔵の里のシンボルであり文化財のタラヨウは伐採されることになり、とて

がこの二、三年の間にCDやDVDが作れるようになり、内容はともかくとして見てくれだけは立派なものが作れるようになった。そこで厚かましいことに第一作として『テル爺さん三波春夫を歌う』とタイトルして親しい人たちに聞いてもらつた。それ以来いろいろなCDができた。特に面白かつたのは浪曲の男の花道をレコードと一緒に語つたら、演者三門博先生の声が消えて僕の声に変わり、プロの三味線入りのCDに変身したのにはこちらがびつくりした。ふだんアイデアに優れ僕がアイデアマンとよんでいるOさんがその後会つたときに見せた笑い顔は今でも目の前にある。

また小学校の同級生には長年途絶えている昔の同窓会のビデオを収録

も残念でたまりません。平尾邸、武蔵の生家は空き家になり、武蔵の里はさみしくなった感じですが、にもかかわらず、全国各地から、あるいは海外から武蔵のふるさとを一目見たいという思いでやってくる人は後をたちません。

先人たちは町ぐるみで武蔵の里を盛り上げようとし、武蔵にまつわる

今日の予定

大谷 照夫

絵画教室のとき、先生が「老人は教育がなくてはいけない」と言われてドキツとしたが、なんのことはない要するに老人の教育とは、今日行くところがなくてはいけない。つまり今日一日の目標がなくてはいけない

文化財も守ってきました。今それらが危機に陥っている感じがします。私にとつて武蔵は祖父や小学校の運動会のような懐かしいふるさとのような存在です。ふるさとの自然や武蔵にまつわる文化財を守り、はるばる遠くからやってきた人が、よかつたと思えるような武蔵の里にできないものか、日々考えています。

というしゃれ言葉だとわかつてホツとした。八十九歳の僕はどうだろうか。

今までの僕は長い間パソコンは持っていたが、手紙を書いたり住所録を作つたりする程度で利用していた

して送つてあげたところ、みな喜んでくれた。僕も満足した。そんなことから今年も是非立派なCDを作つて送りたいと思つている。しかし計画しても実現させるには稽古が必要で、残暑見舞いにしても年賀の頃にしてもみるみる日々は過ぎていくのです。このことばかりではなく僕には他にもたくさんさんの仕事が控えている。

例えば僕はここ数年幼稚園児たちに干支のグッズを作つて送つていて、それが昨年は突然大病を患つて途絶えたので、今年は是非にもと、早くも園児の人数まで聞いていて、この仕事にもすでに取りかかっている。構想は来年がイノシシの年であるので、イノシシ親子の授乳風景を制作することにしている。油粘土で母親と子供、瓜坊も作つた。まずまずの出来

であった。たくさん数があるが、今年3Dプリンターが使えるようになったので心配はない。園児も喜んでくれようし、先生もびつくりされると思つている。

まだまだ他にも工作の仕事が待っている。三味線から歌の稽古、絵のほうも、はよー描け、はよー描けとキヤンパスが催促している。僕の心が僕をこき使つて止めようもなく、今日仕事がないところではない。



二十年后はこんな村？

鳥形初美

平成から元号が変わって二十数年が過ぎました。私もずいぶん年をとり、年が明けると米寿を迎えます。住まいはかなりな田舎。バスはあるものの、朝と晩の二便、通勤通学はともかく日常の暮らしに利用できるものではありません。郵便局やコンビニですら歩いて行くには距離があり過ぎです。そんな田舎に住む私ですが、日々の買い物にはそれほど不便はありません。SNSを使った買い物代行の助け合いが充実しているからです。

さて、今日は何を作って食べようかしら？保存のきくものはストックしてあるけれど、パンや牛乳、豆腐な

ど消費期限の短いものはまとめ買いもできませんからねえ。今夜は寒くなりそうだから湯豆腐でも食べたいところ。そうそう牛乳も切れてたし、豆腐と牛乳を買って来てもらいましょ。誰か頼まれてくれる人はいるかしら？うちは幹線道路からは少し離れてるしねえ。

昔はインターネットといえば据え置きのパソコンばかりだったけれど、二十年くらい前から簡単に持ち歩きできるタブレットに代わってしまいました。ほとんどの家にWiFiが設備されているので機器さえあればいつでもインターネットに繋がっている時代です。

以前に買って来てもらったお豆腐と牛乳の写真を貼りつけて、金額を書いて…六時くらいまでにお願いたい。とSNSで依頼したところ、保育園のお迎えのついでに寄ってくるといふ若いお母さんがありました。あーよかった。

ちよつと前に壊れた土鍋は大きすぎたので、少し小さめの土鍋をネットショッピングで購入したばかり。さっそくそれを使って、今夜は湯豆腐にします。

お昼に豆腐と牛乳を持って寄ってくれたお母さんに『ありがとうコイン』と商品代金を渡します。このコインは村のイベントで使えることになっています。事前にコインを購入しておかなきゃいけないけど、感謝の気持ちを伝えられるステキなコイン

です。

こんな風に便利で文化的な暮らしができるのも、通信技術や機器が進化したおかげ、そして行政やいろいろな団体がそれらを楽しめるように導入してくれたおかげ。でも、それ以上に人と人がお互い信頼し合って、みんなが幸せに暮らせるように助け合える村になったおかげだと感じます。

便利なものができて使えないままではもったいない。使うための学習や努力も少しは必要かもしれないよ…と、平成の終わり頃に誰かが言っていました。なるほど！そうかもしれないーと思って衰えがちな頭脳で、ちよつとずつ頑張ったかいたったなあど昔を振り返っています。



歴史紀行

大きなできごと

些細な歩み

みな

人間の歴史

かたりべとなって

伝えよう



写真 末元正和

高原池の歴史

井口祥子

稲作農家にとって、水は欠かせないものであります。稲を育てる水田に水を取り入れる工夫は、昔から重要な課題でした。私達の地域では、高原池に大いなる恩恵を受け、日でも続きの年でも困ることがありませんでした。

高原池は、美作市田淵字高原にあつて、その大きさは一八〇間×六七間（三二七メートル×二二二メートル）周囲（二〇二〇メートル）水面四町三反二二歩（四三九アール）
文書によると寛保元年酉年秋九月より

樋替笠置

一、監樋長武拾耆間

用水捕高三四〇石壹升四合

田淵村八石五斗（二・五割）

柿ヶ原一八石六斗（五・五割）

白水村三五石（二一・〇割）

笛村五五石（二七・〇割）

土居村八三石（二三・〇割）

角南村一四〇石（四一・〇割）

また、享保元年（二八〇一）漏水・樋替えにあたり樋の寸法で論争・訴訟方土居・竹田二カ村が相手方角

南・田淵・柿ヶ原村三方村論外白水

村訴訟先竜野および海内御役所、

前々どおり八寸樋に改めよ、相手方現在どおり六寸樋でよい、この仲裁

には勝南郡宮山村・行延村・英田郡下倉敷村・勝北郡向原村の各庄屋があたり、七寸樋に綴り穴は六寸とし堤の上置きを六尺とすることで解決。

この後にも文政二年（一八一九）前年から工事中の上置き六尺の件で異論、訴訟にまで発展しています。工事についての人足等きちんと記録され引継ぎ文章として残っています。そして、昭和の初め管理者の春名武雄氏を中心に土堤の増築工事が行われ、昭和七年起工昭和八年竣工の顕彰碑が高原池のほとりに建てられています。

現在の高原池の広さは、二万八千二百十二平方メートル、堤八百六十四平方メートル、山林一万二千五百七十四平方メートル、干害用ポンプ五台を有しています。竹田村はのぞ

き、田淵、柿ヶ原、白水、土居、角南の総代が毎年四月には集まり総代会を開催し、堤防の草刈りを年二回実施したり、池の維持管理について協議が行われています。先日の西日本豪雨により岡山県のため池三十六カ所損壊、三カ所堤防決壊がありました。高原池は何とか損壊を免れることができました。

高原池は農業用水としてのみならず海洋センターの艇庫があり、ボートやカヌーが浮かぶ時もあります。



勝田天山弥生墳丘墓に思う墓中

春名倫子

弥生時代とは、およそ紀元前三世

紀中頃から、紀元後三世紀中頃までに当たる時代を言い、中国大陸・朝鮮半島などから米作りの技術と農耕用の石器、鉄や青銅の金属器が伝わってきた、人々の暮らしが大きく変わった時代です。米作りのための水田を作って耕したり、その水田に水を入れるための水路を作るなど、大がかりな作業を人々は協力しながら行い、安定した食料の確保ができるようになったと考えられます。岡山県内にはそういう弥生時代の暮らしのあとが見られる墳丘墓がたくさんありますが、現在は地下に埋もれていてなかなか目にすることができま

せん。

墳丘墓とは、弥生時代後期に盛んに築造された盛土をした墓のことで、吉備・山陰・北陸などの各地方で行われた墓制のことです。勝田天山弥生墳丘墓、方墳これは市のクリーンセンター設置にあたり、調査の段階でみつかったもので、三世紀ごろの県内でも珍しい古い墳丘であると判明、美作の歴史の解明におおいに役立つとして保存されることに決定しました。命名については「作東の文化」No.41に少しばかり書いていますので、そちらをご覧ください。今後は教育委員会が中心となって様々な計画がなされ、古代のことに

ついて市民の方の関心が得られることを考えています。

「天山」名についての私なりの考察ですが、「天」は「雨」に通じる。農耕民族にとって水は最も重要なものの一つであり、水の状態によって収穫が左右されることから水の神は田の神と結びつきます。私達を支えている大自然とそれを象徴する神へ結びついたという意味の「天山」だと私なりに解釈しています。

目を県南に転じてみますと、弥生時代の墳丘としては国内最大と言われる倉敷市の楯築弥生墳丘墓があり、発掘調査で孤帯文石が検出されています。頂上には立ち並んだ巨大な立石を間近に見ることができ、大槲・木棺を使った特別な埋葬の様子も明らかになっています。これ等の

遺跡を通して弥生人はどんな環境に住んでいたのか、また祭祀の可視化、地形や気候、植生の変化までも伺い知ることができ当時の人々の実像を探ることができるのではないかと推測されます。

国土の狭い日本はどこを掘っても遺跡に当たるとも思いません。すべてを保存するというのは難しいという事も理解できます。ですが、これ等の遺跡の重要度から見ても簡単に破壊してしまうのは反対せざるを得ません。

今日ではインターネットの普及によって最新の発掘情報を写真とともに瞬時に見ることが可能になりました。その一方、各地の新出遺跡の現地説明会や博物館などの講演会にも多くの人が参集しています。人々

が求めているのは、史、資料の単なる情報ではなく、確実な歴史的事実です。歴史研究サークルなり、有志が集めてそれぞれの分野を分担し発信することが、これからの古代史研究の成果をあげていくことになるのではないのでしょうか。共同研究の要を感じているこの頃です。

参考資料

洋泉社

日本人の起源縄文・弥生の世界

笠倉出版社

謎多き古代史をめぐる

岡山県史、古代と資料

など

天皇の称号について

井上 健一

終戦までの時代なら、天皇の称号について疑問を持つことなどは許されなかったはずですが、現在では自由な発想をすることができます。歴史は政治や調査する人間のこだわりにより、大きくゆがめられることもあります。歴史は、ゆがみを知らずに教科書化されている場合もあります。今回は教科書に載っていない日本史を、独断と偏見で、書き込みます。

来年は天皇の生前交代が行われます。そのニュースを見ていた時、天皇の呼称について疑問を感じました。なぜ天皇なのだろうか？同等の方を皇帝とか王等のように表現する言葉は沢山あるはずだが…。

もしかかと考えた時、一瞬にして多くの謎が解けました。

私の発想の転換で、ある人物が天皇の呼称を造り出した可能性があるので、？と思ったのです。この疑問は、私の歴史に関する考えが大きく変わった瞬間でした。その人物とは聖徳太子です。聖徳太子が活躍した時代には、中国では皇帝や国王は、天子と呼ばれていました。

聖徳太子の誕生時点では、既に千数百年以上の文明の開きがありました。中国と対等の国交をさせるには、どうすれば良いのかを考えたとして、知恵が必要になります。

そこで天の子の上は天の皇とした

のではないかと思われまます。

そこで、自分の親族の女性を天皇とし、自らは影の実力者として摂政になったようです。更に、神話として庶民に広く天皇の存在を示したとも思えます。

昼間の世界を照らす太陽の神格化である天照皇大神は、推古天皇がモデルだと思えます。それは天照皇大神と言う文字を暗号と考えると、天皇は大きく照らす神となると訳すことができます。単なるこじつけだと思われるかもしれませんが、後の世に、ひらがなが開発されるまでは、漢文だったはず。なぜ天照皇大神だけが、そのままの読み方になっているのかを考えると、こうなりました。

有名な卑弥呼は現在の都道府県の



洋画 尾崎 千代子

知事のような存在で、天照皇大神のモデルとは思えません。

視察研修旅行記

山本進一郎

去る七月三日、作東文化協会の視察研修旅行が会員三六名の参加を得て実施された。そもそもこの旅行記を書くことにしたのは、我々の旅行の三日後に高梁川・小田川が氾濫し、未曾有の損害がもたらされたからである。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。電話で確認したところ矢掛町の中心部、本陣のあるところは水害を免れていた。

初めに矢掛本陣石井家を訪問した。石井家は江戸時代の初めの頃から本陣職を務めながら酒造業を営んでいた。

土品（奈良三彩小壺など）、県指定の重要有形民俗文化財（笠岡港の力石）などを学芸員の説明を受けながら拝見した。

今回の研修は参加者も多く、賑やかに和気あいあいと楽しい旅行となった。作東文化協会の事業の一つであり毎年実施している。行く先の提案など会員皆様のご意見をお聞かせください。

水みやぐら

文月の空に

聳えけり



矢掛の水見やぐら

た。屋敷は旧山陽道に面して間口二〇間（約三六メートル）敷地面積九五九坪（約三二六四平方メートル）の矢掛宿で最も大きな町家である。国指定の重要文化財でもある。徳川一三代將軍家定に嫁ぐための道中で、薩摩の天璋院篤姫が宿泊した記録も残っていた。

本陣のすぐ近くに「やかげ郷土美術館」があり、そこには「火の見櫓」ならぬ「水見櫓」の立派な建物があつた。火の見櫓は各地に残っており、半鐘の櫓と兼ねて作られている。しか

し寡聞にして水見櫓は知らなかった。これは矢掛町の町木、赤松を使い伝統工法によって作られた建物で高さ一六メートルある。昔から浸水被害を受けていた名残であり、往時大雨の時はこの櫓に駆け上り小田川の様子を確認していたのであろう。今回はこの櫓を使うこともなく、事なきを得たのである。

次に井原市立田中美術館を訪問した。平櫛田中一〇七年の事績が要領よく纏められていた。作品の一部を紹介すると、あの有名な「鏡獅子」の試作、気楽坊、五浦釣人、禾山笑、赤福おばあさんなどが印象に残った。

このあと昼食、次に小田県庁跡（今は小学校）に残る長屋門を車窓から見、笠岡市立郷土館を見学する。国指定重要文化財の大飛鳥祭祀遺跡出

短文芸

生きている
あかしとしての
自分の思いを
自分の言葉で
表現する
その表現が
万人の魂を
ゆり動かす
短文芸の力
伝統文化の力



生花 樽 井 清 甫

俳句

伊予柑

春名 はるを

雪はげし 境港の船溜り
季語のみが空回りする春炬燵
島暮るる 螢袋に宿を問ふ
伊予柑の香りを乗せて電車着く
阿知宮の素隠居 踊風薫る

花冷

山本邦実

花冷や二人に 回る観覧車
アイスティー待つ三分の砂時計
昭和の日老いて背広の似合ひけり
人生の二章めに生く夏帽子
亀鳴ける夕べ物干す男あり

大かぶ

青山美和子

大かぶの真白き肌 にひげ根っ子
過疎の村一輛列車浅き春
花筏ゆらりゆられて吉野川
踊り子に合わせて揺らぐ吊提灯
菊の香や山寺の鐘谷渡る

すみれ草

井口祥子

目立たぬも精いっぱいのすみれ草
菜の花や夜道ほんのり道しるべ
チヨキチヨキと茶を摘む青と鳥の声
災いをほたるぶくろに詰め込んで
幼子の五月雨ぬれて砂いじり

折折に

沖田はるみ

左義長の煙の包む杜の千木
玉垣の蘇柔らかし芽木の風
早暁のひかり総身に青葉杜
杜寂とただ木啄鳥の音続く
境内の木の実時雨や杜も又

折にふれ

杉本幸子(土居)

凍りつく水面に遊ぶ小鳥かな
降り積もる雪に山茶花紅散らす
風そよぐ水面やさぎ波きらきらと
囀ずりや新緑まぶしき木立かな
五月晴れ鳶が輪を描く過疎の村

花見

高橋ヤエ子

切り株に座り二人の花見かな
朝霧や村を呑みこむ力なり
音立てて番茶の乾く夏日かな
ちりちりと野火の這ひ出て果にけり
化衣・駄ごとに華やぎぬ

すみれ草

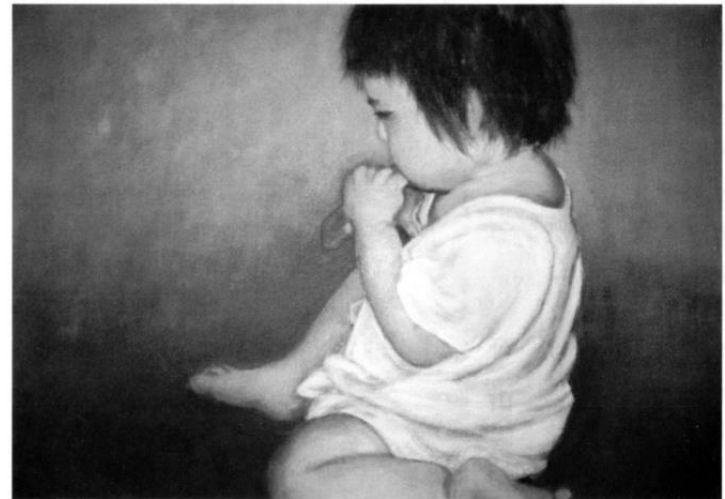
樽井千草

すみれ草清水流れる岩陰に
菜の花の明るさたばね瓶に挿し
たれさがる頭上にゆらぐ藤の花
朝の間の山の景色や夏霞
いつまでも白もつれ合う夏の蝶

桐一葉

豊田絢子

のびのびと鳶は輪を描く初山河
雪の朝竹のトンネル通せん坊
皿の上に添へし一片春惜しむ
傘立ての満席となる五月雨
廃屋の門に音たて桐一葉



洋画 秀谷光則

春

春名静山

鼻先で探す草の芽牧の牛
春めくや緑増したる葱の丈
咲き出でし松山より大桜
苗箱に粉蒔く一粒万倍日
田を植える機械一人一人

妻

阿北斎

浴衣着て夢語り合い逗子の浜
鼻声の色香の混じり寝冷かな
あじさいの似合う美人か我が女房
卯の花に背中押されて手を握る
ソーダ水泡の向こうに妻の笑み

合歓の花

山本真由美

留守居して庭に独りの日永かな
鷺草の開く演習基地の中
水音の優しきリズム合歓の花
合歓の花触ってみたき花の内
若き日の過ち幾つ天の川

夏

丘乃雀

かき氷特訓終えた子を誘う
板床に寝ころぶ夫暑気避けて
友からの暑中はがきの来ぬわけは
ひぐらしや雨にも負けず鳴き続く
扇風機の前に陣取るうだる午後

野の花

山本靖子

さわやかや野の花ゆらぎ夕日映へ
夕暮の五月雨傘で待つ女将
強東風や瀬戸大橋の揺れを見る
孫の無事七夕竹に糸をかけ
栗の花腰をのばして見る老女

珊瑚樹

坂井はつ子

珊瑚樹のふところに鳴く油蟬
珊瑚樹が遠目に赤くなり染めぬ
境木の珊瑚樹高く暑に耐ふる



洋画 小林道幸

川柳

金字塔

春名 静山

失敗を重ねて築く金字塔
自信作でも今回も没でした
油断すな教えてくれた茄子の刺
泣き笑い勝負の道を生きてゆく
闘病の老を悩ます熱中症

短歌



生花 溝曾路 万寿美



夫よ

角 利津

そつと出す血の気なき手を握りをり厨に冷えし赤
きわが手に
形なき料理を旨しと食ふ夫よ我は目で食ふ罪の思
ひに
病むとても亭主関白にて在らまほし優しき言葉は
一切不要に

光

黒石 登代

昇る日が一瞬光の輪に見ゆる驚きに立つ霧の満つ
中
黒々と襲ふ雷雲雷光に病葉は鳥と化りて空舞ふ
点滅の光灯して星空を過りゆくなり虫の音の中

季のすぎゆく

長澤和枝

川辺の田に堆肥ふりつつ食べきれぬ倉の中なる米
を思ふも
白き茎を伸ばして八つ手の花が咲き裏かどほつと
明るみてきぬ
かど先の熟柿に今年も鶉のきて息とむるがに見あ
げてをりぬ

野の花

中山昌子

武骨なる男と見られぬし夫なれど野の花見ればき
れいだと言ひき
木の蔭でどくだみ楚々と咲きたれど鳥におごれば
一日手古摺る
この年も時鳥が又来たるらし初音知らしし夫は今
なく

青空

日下智加枝

青空を雲が渡ればその下のみ暗く哀しみを置きゆ
くごとし
青空を映してさざ波ひかる川荒れ狂ひしはひと夜
の夢と
青空を微振動させてゐるやうなあめんぼうの脚が
水面をすべつて

何やら嬉し

浜田くに子

「伊和都比売神社」に詣ぶふるさとの神の比売神
ぞ何やら嬉しき
人の為世の為尽くせといふ神籤何やら嬉し「伊和
都比売神社」に
玄関の入口なるともつばめの巣を朝毎に見るは何
やら嬉し

何はともあれ

入矢敏江

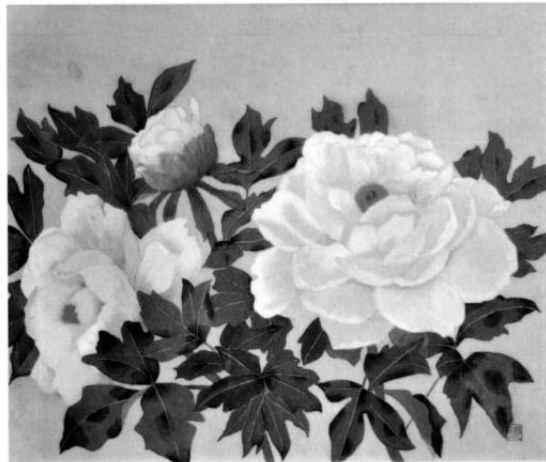
「見てごらんあんたの毛ですぞ」掃除機を押しつ
つ言へば犬はあくびす
刈り込むは薔薇のアーチと黒文字とそのあと夫の
白髪頭を
帰らねばさみし帰ればうるさしと布団を干しをり
何はともあれ

追憶

山下光子

後二年生命ありなば金婚式を迎え得たるに絶えず
惟みる
何とまあかくもみにくき面となり九十路独り居跡
の偲ばる

生き居らば今年百歳なのにまあ早々昇天なせし吾
が人



日本画 珍珠 純子

折々に

佐々木 美奈子

初めての西瓜のほひほんのりと割れある目の如く見えつつ

台風の過ぎ去る速さ気になりてスマホの画面幾度も変へつ

骨折後年老いし母励みつつ歩行訓練の成果あがりたり

曾孫一周年

山下 照夫

梅雨晴れの緑溢るる此の佳き日皆に祝され曾孫すくすく

百年に一度ありやの大惨事他人事ならず明日は我が身に

国中が災害に苦しむ最中をどさくさ紛れにバクチ法とは？

秋の雲

森本 久子

ほほゑみて介護につとむる若人のやさしさに包まれひと日終りぬ

ねばりなく白白として秋の雲峯の遠くへ消えてゆきたり

青き山のくぼみの中より煙たつあの高きところに人の居るらし

散る桜

名部 みどり

散りてゆく桜の花びら流れゆくを散りにし戦友とつぶやく人あり

海の中に沈まざる間にふんはりと抱いてみたり瀬戸の夕陽を

旅に出る友の話す声ピチピチと病ひでふす身に響く
A (届きぬ)

「反覇」と「世界市民」

加藤 芳英

「中共」は「国連加盟」直前ごろ「覇権求めず許さず」と宣伝

日中も反覇自由の心もち「和顔愛語」の友好国であれ

核心は「世界市民」たちの連携よ「反戦非核」の動き彼方此方に

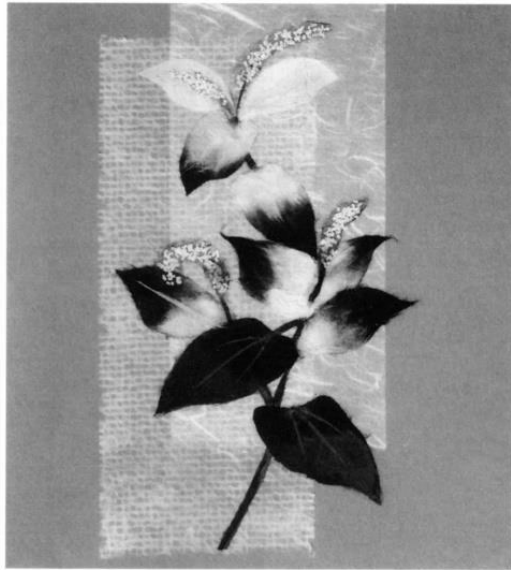
折りにふれ

杉本 幸子(土居)

遠き日にほたる追いたる川土手も今は淀みに牛蛙鳴く

降り続く雨にこもりて車いす脳トレナンプレに熱中しており

五月雨や窓に張り付く雨蛙白き腹見せじつと動かず



ちぎり絵 中野 祐一

故郷の海

鳥形 多津枝

冬二月渚に寄する波の泡手に取り吹きし波左間の海よ

北条の棧橋から見る百選の夕日が沈む海原染めて

水色の朝顔一輪咲きにけり我が故郷の海の色に似て

お別れに

井上 さかゑ

添削の幾首給ひしや陸まじく教はりし師よ友よありがたう

幾とせぞ歌教はりしはゆとりなきわが生活のともしびとなりて

散る枯葉に想ひ寄せつつ生れふたびこの師この友と学ぶを願はむ

山里にて

大内 佐智

暮れなづむ過疎の山道人に会ふ事もなくしてうり坊に会ふ

真向ひの山も季節の衣替へ一際目立つはうるしの紅赤

月明り雪明りと共に山里に在り午前三時の一幅の絵よ

前を向いて行け

藤本 伸子

寝待月冴えたる光よ雅なる心に恋をば詠んでもみむか

長身の孫に頼みて「さくらん坊」に網をかけても鳥に取られぬ

我の血を継ぎたる児とぞと思ひつつ写真に話すか前を向いて行けと

剪定

内藤 慶子

小庭辺の剪定あととわが頭の理髪のあとは風通しよし

生ひ茂る小さき庭も剪定し見えにくかりしが見渡せば見ゆ

剪定の済みし小庭に立ち見つつカットせし我の頭をなでをり

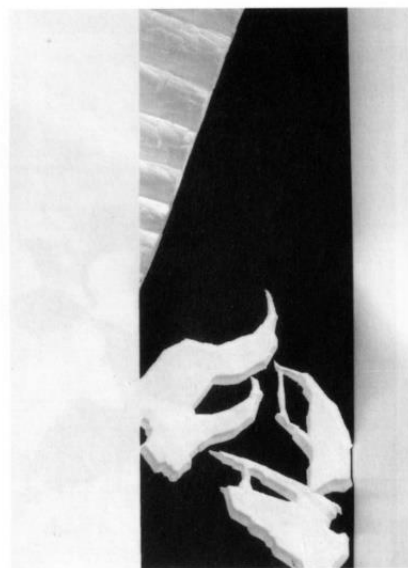
冬の日

松井 洋子

障子には白さの増しし白があり開くれば雪が深く居座る

青竹は自在に幹をくねらせて添ひてゆくなり風にも木にも

孫達が雪達磨らを置き去りて大人四人に戻る沈黙



書道 山本 裕

冬の佐用霧

坂井 はつ子

うす桃の侘助ひとつ開きたり蕊かこみつつ恥らふやうに
夕暮のあるかなきかの風花にもの思ふことふはふはとして
わが位置を知らず術なく包みこみ空まで隠す冬の佐用霧

春夏秋冬

中村 千州代

穏やかにはた碎けつつ千種川絶えざる流れの幾年や
この村もかつては向井潤吉の描きしのどけさそのものなりき
夢のごと春夏秋冬走り過ぎただにいとしき子等の幼日

古希を迎へて

平瀬 芳子

喜びは指折り数へ歌詠むこと嬉しきことを思ひ出しつつ
貧しくも雨露しのぐ「家」があり夫と耕す田や畑もある
夫があり子あり孫あり友もあり「有難きかな」古希を迎へて

山里に暮らして

渋谷 友香

動くものふと視野に入り後追へば穴熊の眼は思ひの外やさし
にはか雨の去りたる山の杉の葉は日差しを受けて星州をまとふがに
押し芽して二年目にして薔薇が咲く期待以上の出来事なりけり

梅干とお粥

岡田 仍子

「大丈夫か」と声をかけられ身に沁みぬいつしか
寄り受くる身となり
梅干とお粥が良いと言ふ度にお前も年かと苦虫かむ夫
度忘れか咄嗟に出ぬと言ふ夫を笑ひてをりしが我も出で来ず

変りゆく

宅美 とみ子

船越山森深く登れば岩間より冷たき風の吹く穴あるなり
千種川清き流れは変らねど鮎や雑魚の泳ぐは見えざり
猿猪に取られてしまひ何も無し案山子のごとく畑に立ちをり



生花 末宗悦甫

家族

土井 つゆ子

帰省した息子の笑ふ声がする皆もつられて笑ひの壺へ
五歳なる男孫のリユックには万華鏡・小石・貯金箱など数多詰まりてあり
パーベキューの後の花火が待ち遠し愛犬ココもちやつかり参加して

生き生き人生

有元 理嘉子

「八十九歳」の誕生日の我姿見に立ち映せり背筋伸ばして
ゆつくりと時の流るる豊けさをかみしめをりぬ今を満たされ
温き師に友に出会ひて晩年を生き生き暮せるわが人生よ

雑草

豊田 絢子

やせ畑に雑草ばかり青々と芽生えてをりぬ春が来たよと
やはらかなる日差しを頼みに畑に行けど野菜は育たず草は蔓延る
雑草と雖も華やぐ時あるも心を絶ちて刈る手止めず

羽撃く族

黒石 初江

決断し姪と二人のその息子はフィラデルフィアへ旅立ちて行く
「明日から南アフリカに行つて来る」と軽々と言ふ弟は何者
新しき駅舎を造る責任をその身に背負ひて息子は張り切る

重荷

小林 洋子

招かざる日々は押し寄せだんだんと加速なすがに重なる齢ぞ
補聴器に眼鏡にマスクに頼る耳負担はあれど背負ひてあらな
戊年を七回迎へし年女運転免許が心の重荷に

峠の鶯

新田 千晶

まづまづの発声なれど音程は今一つなり峠の鶯
昨日の哀しきことはなかりしごと朝には陽も射し鶯も鳴く
鶯の澄みて鳴く音の「ホーホケキョ」に疲れし我は癒されてをり



写真 井口 満春

歌の種

末宗 玲子

目で耳で肌で季節を感じても歌には詠めないこのもどかしさ

歌の種捜すつもりで歌会の会場までの二キロを歩く

私の歌には「オチ」があるみたいと友の一人は評論し呉るる

乙女

丘野 道子

みずみずしい娘の装う耳飾り橙色の花を咲かせて

束ねられた長い黒髪乙女子の背で揺れおり弾み歩
けば

結納の飾りを前に和服着て微笑しながら座る乙女子

弟

福島 美智子

月よりも大きな西瓜をぶら下げて弟の家の階段のぼる夜

乳液の容器を立たせぬ逆しまに長き一夜の絶対容量

法要の終はれば元の空き家にと時間を戻すか遠のく実家よ

思ふがままに

春名 倫子

地名研をすすめくれし仲間あり心ゆたけき日々を
楽しむ

天に向き唾吐くよな心地なりゆく先見えぬダイオ
キシン対策

年古れど父征きし朝のさみしさをおりふし想ふし
んしんしんと

大水

三浦 智江子

真備町のボランテアの汗したたるを祈りつつ見
る三十七度

マスコミに触れられもせずふるさとの町の冠水・
注連山のくづれ

大水を見舞ひし桑名の友は言ふ木曾三川に近き憂
ひを

問はざるままに

関内 惇

秋雨の降りては止みてまた降りて曇るは我のひと
世にかも似る

谷間より立ち昇りゆく霧よ霧われの老いをし乗せ
てゆけかし

八十四年を生き来てなほも夢追ふか残んの命は問
はざるままに



書道 島 民子

作東文化協会 グループ紹介

部 名	グループ名	種 別	代表者氏名	指導者氏名	例 会	場 所	展 示 会 等	作東文化協会会員			作東文化協会未加入者	合 計
								作東地区内	作東地区外	子ども(中学生以下)		
書道部	1 白雲書道会	書道	北村福作	山本千代子	月2~3回	作東公民館江見教室 美作アルコ林野教室	9月7・8・9日開催白雲書道会展(作東美術館)	13人	16人			29人
	2 阿部書道会	書道	真野みよ子	真野みよ子	月4回	川崎教室		2		24		26
	3 書春名	書道	春名直子	春名直子	月3回	岡高本公民館 岡南公会堂 徳西町コミュニティ		6	1	22	3	32
	4 玲華書道教室	書道	末宗玲子	末宗玲子	月4回	末宗玲子宅		2	2	12		16
絵画部	5 作東水彩画教室	水彩画	妹尾美智子	竹中信清	月1回	作東農村環境改善センター	春の絵画展	7	5		1	13
	6 作東油彩画教室	油彩画	妹尾美智子	竹中信清	月2回	作東農村環境改善センター	春の絵画展	7	5		1	13
	7 さつき会	絵画	寺師喜代美	井上美智江	月2回	教室 華(美作市江見)		7	4			11
	8 土居すみ絵	水墨画	小林艶子	岩本敏子	月2回	J A勝英土居支所	南花墨画会出展	5				5
	9 すみれ会	絵手紙	岩本敏子	岩本敏子	月2回			8	1			9
	10 こぶしの会	油彩画 水彩画	田中佳栄子	権田直良	月2回 12~30写生	JA作東支店大会議室	グループ展	4	3			7
	11 吉野ひめっ子クラブ	絵手紙	小坂田千恵美	-	月1回	殿河内集会所	吉野郵便局 吉野きんちゃい館	11	1			12
	12 江見ちぎり絵教室	ちぎり絵	唐内治美	杉本幸子	月1回	作東公民館		6	1			7
	13 福山ちぎり絵教室	ちぎり絵	下山美好	杉本幸子	月1回	福山多目的集会所	山の学校	14				14
茶華道部	14 ひまわりの会	華道	中田敏子	中田敏甫	月2回	作東公民館		8				8
	15 茶の湯同好会	茶道	谷本津多江	谷本津多江	月2回	作東公民館	9月お月見茶会、1月初釜	7	1			8
文芸部	16 英北短歌会	短歌	横山 猛	関内 惇	月1回	作東公民館	文芸愛の小径短歌会(4月) プラザ展示(10月、3月)	12	16			28
	17 能登香短歌会	短歌	松井洋子	関内 惇	月1回	粟井教育集会所	プラザ展示(3月、10月) 粟井村の行事(ふれあいの集い)	10				10
	18 吉野短歌会	短歌	豊田絢子	関内 惇	月1回	作東農村環境改善センター		9	1			10
	19 山家川俳句会	俳句	春名貞和	春名 はるを	月最終 土1回	福山老人福祉ホームまたは 福山作東山の学校研修室		12				12
	20 作東川柳同好会	川柳	福嶋完治	-	2ヶ月に1回	作東公民館		10				10

作東文化協云 グループ紹介

部 名	グループ名	種 別	代表者氏名	指導者氏名	例 会	場 所	展 示 会 等	作東文化協会会員			作東文化協会 未加入者	合 計
								作 東 地区内	作 東 地区内	子ども (中学生以下)		
歴 史 部	21 歴史地名研究会	地名研究	新 田 祐 之	特定の指導者はなし	月 1 回	作東公民館		7	5			12
	22 古文書を読む会	古 文 書	真 野 みよ子	グループ内リーダー制	月 1 回	作東総合支所会議室		5	2			7
写 真 部	23 写真同好会 写友	写 真	小坂田 貢	小 玉 司	年 4 回	随時 撮影時、場所不定		13	2			15
芸 能 部	24 吉野ハピネス	大正琴	小 林 珠 枝	富 永 仁 美	月 2 回	吉野公民館		7	4			11
	25 J A勝英あずさの会	大正琴	岩 本 敏 子	藤 谷 守	月 1 回	J A勝英本店	福山ふれあい演奏会出演(9月) 兵庫県大会出場(12月)、JA勝英発表会出演(3月)	4	5			9
	26 作東吟詠愛好会	吟 詠	光 辻 猛 美	光 辻 猛 美	月 2 回			22		1		23
	27 コール作東	コーラス	春 名 みどり	池 田 直 美	月 2 回	作東公民館		12	1			13
カラオケ部	28 作東音楽同好会	カラオケ	島 民 子	土 屋 博 司	月 4 回	作東公民館		5	11			16
	29 粟井カラオケ同好会	カラオケ	松 本 満寿子	-	月 2 回	旧粟井小学校音楽教室		9				9
工 芸 部	30 む つ み 会	ちぎり絵外	山 本 津多江	-	月 3 回	原公民館		5				5
棋 道 部	31 双山囲碁クラブ	囲 碁	横 山 廣 志	横 山 廣 志	年 2 回	作東老人福祉センター		21			48	69
情報映像部	32 お達者ネットクラブ	インターネット	鳥 形 初 美	-	月 2 回	旧粟井小学校1階会議室		4	3		1	8
手 芸 部	33 ビーズを楽しむ会	手 芸	野 村 啓 子	西 坂 暁 子	月 1 回	作東公民館		8	6			14
	34 手芸編物教室	手 芸	原 田 豊 子	原 田 豊 子 野 村 啓 子	月 4 回	作東公民館	宝妙寺(節分祭、青葉祭)	19	3			22

301人 99人 59人 54人 513人

平成29年度 作東文化協会事業報告

【全体事業】

年	月	日	事業名	内容
29	4	28	第1回理事会	事業計画・会員募集・文化誌原稿・視察研修・文化誌「作東の文化」(第43号)発刊について
	5	11	第1回文化誌編集委員会	編集委員長の選任、編集の基本方針について・内容・原稿募集・編集日程について
	5	19	第2回理事会	会員募集・文化誌「作東の文化」(第43号)・視察研修・専門部グループ調査について
	5	19	会員募集開始	会員募集
	7	4	研修旅行	倉敷市児島地区 【F岡山道連ふか〜ら〜(買い物)、児島観光港、瀬戸大橋周辺観光船、史跡・野崎家旧宅、摩崖山・蓮台寺】
	7	31		会員募集メ切、グループ調査メ切
	8	4	第2回文化誌編集委員会	応募原稿の確認仕訳作業・原稿応募数について
	8	17	第3回文化誌編集委員会	応募原稿の確認仕訳作業・原稿応募数について
	9	8		秋の文化展展示希望調査提出メ切
	10	2	第3回理事会	文化誌「作東の文化」(第43号)の配布 秋の文化展について
	10	2	秋の文化展	作品展示(B&G海洋センター)
30	1	19	第4回理事会	美作市文化連盟作品展示について 作東文化協会 芸能発表会について 支部・専門部活動報告と計画提出メ切 美作市文化連盟作品展示希望調査メ切 総会提出案件について 昼食会
	2	9		
	3	2	第5回理事会	
	3	23	美作市文化連盟作品展示準備・展示	
	3	25	美作市文化連盟作品展	作品展示(B&G海洋センター、バレンタインプラザ、作東美術館)
	3	25	第13回芸能発表会	(作東バレンタインプラザ)
	3	25	平成30年度作東文化協会総会	(作東バレンタインプラザ)

【支部活動】

部名	年	月	日	内容
江見・豊野支部	29	6	2	江見・豊野支部合同評議員会の開催、チラシ配布と会員募集
		10	6	江見・豊野支部合同評議員会の開催
土居支部	29	6	5	支部総会(会員募集)
		8	25	評議員会(研修旅行打合せ)
		9	26	研修旅行(足立美術館)
		10	5	評議員会(文化誌の配布)
福山支部	29	7	4	福山支部評議員会
		11	14	研修旅行(鞆の浦)
粟井支部	29	6	6	第1回評議員会
		10	11	第2回評議員会
吉野支部	29	6	20	第1回評議員会
		9	15	第2回評議員会
		11	14	研修旅行(倉敷 後楽園)

【専門部活動・1】

部名	グループ名	年	月	日	内容								
書道部	白雲書道会	29	9	1~3	(定例) 江見教室(作東公民館)月1~2回開催 林野教室(美作アルコ)月2~3回開催 白雲書道会(作東美術館)								
					阿部書道会 (定例) 月4回 川崎教室								
	書春名 (定例) 月3回 高本公民館、角南公会堂、西町コミュニティ												
	玲華書道教室 (定例) 月4回 書道教室												
絵画部	作東油彩画教室	29	5	3-7	(定例) 月2回開催(油彩画教室) 月1回開催(水彩画教室)								
					春の絵画展								
	作東水彩画教室	29	5	9	9 県展出品								
					10 しんわ美術展出品								
					30 2 湯郷を描く展覧会出品(湯郷交流センター) 3 第1回奈央美会絵画展出品(奈義町現代美術館町民ギャラリー)								
	さつき会	29	30	1	(定例) 月2回 院展(観賞)								
					土居すみ絵 (定例) 月2回開催 29 4 プラザ展示								
	こぶしの会	29	5	6	(定例) 2カ月に1回(不定期) 月1回(第2火曜日) アルネ展示会出展 月1~2回 牛窓美術館(鑑賞) 萩原教室グループ展(鑑賞) 萩原教室グループ展(鑑賞) 県展(鑑賞) 白水の竜 写生 写生会(津山市)秋の風景								
					彩の会 (定例) 2カ月に1回(不定期)								
					すみれ会 (定例) 月1回(第2火曜日)								
					(絵手紙) 29 6 アルネ展示会出展								
					吉野ひめっ子クラブ (定例) 月1回(最終土曜日) 随時展示 吉野きんちゃんい館、郵便局、ビューティーサロンシオン								
					茶華道部	29	10	9	ひまわりの会 (定例) 月2回(作東公民館) 茶の湯同好会 (定例) 月2回 お月見茶会 初釜				
									文芸部	29	4	13	(定例) 月1回(第2木曜日)短歌会 第6回文芸愛の小径 短歌大会
													能登香短歌会 (定例) 月1回定例詠草会(第4金曜日)
歴史部					29	5	5	(定例) 月1回定例詠草会 山陽新聞1回 山家川俳句会 (定例) 月1回(最終土曜日) 作東川柳同好会 (定例) 偶数月 例会・送別会 作品の発表と内容検討 歴史地名研究会 (定例) 月1回定例研究会(第4火曜日) 古文書を読む会 (定例) 月1回(第3金曜日)					

【専門部活動・2】

部名	グループ名	年月日	内容
写真部	写真同好会	29 4	大歳神社 千年藤 撮影 行
		8	バレンタインプラザ 展示
		9	文化展打合せ
		11	千種高原 宍粟市最上山公園 撮影
		30 1	文化展、年間計画の打ち合わせ
	吉野ハビネス	(定例)	月2回開催
		(定例)	月1回(第2木曜日)
	琴伝流大正琴あずさの会	29 6 11	美作市文化連盟出演
		9 15	西日本大会出演
芸能部	舞の会 (早測流・若柳流・菊水流)	(定例)	月4回【早測流・若柳流・菊水流】 宗家講習 月1～2回【早測流】
		29 4 12	寿の会(姫路市)【早測流】
		8	宗家講習(しま市民センター)
		13	コンクール講習(神戸、本部道場)【早測流】
		22	
		5 20	コンクール講習(しま市民センター)【早測流】
		28	全国剣詩舞コンクール岡山県大会【早測流・菊水流】
		6 11	美作市文化連盟(大原公民館)【早測流・若柳流・菊水流】
		28	土居福祉の集い【早測流】
		7 8	菊水流55周年リサイタル剣舞練習(岡山市福泊)
		9	宗家講習(しま市民センター)【早測流】
		23	全国剣詩舞コンクール中国地区大会【早測流・菊水流】
		9 2	ヒルハウスひとはボランティア 佐用施設【若柳流】
		23	菊水流55周年リサイタル剣舞練習(岡山市福泊)【菊水流】
		10 9	宗家指導者講習【早測流】
		15	菊水流55周年リサイタル剣舞出演(倉敷市民会館)【菊水流】
		29	作東ふるさと祭り【早測流・若柳流】
		11 3~4	第62回 岡山県吟剣詩舞道大会(玉島文化センター)【早測流】
		5	美作文化祭 剣舞参加(美作文化センター)
		9	え〜る ボランティア 川上多機能型施設【若柳流】
		5~8	第11回美作市吟剣詩舞道連盟(大原公民館)【早測流・菊水流】
		30 1 28	宗家講習(しま市民センター)【早測流】
		7	演舞始め式(神戸市)
2 18	菊水流コンクール(万富公民館)【菊水流】		
	作東吟詠愛好会	(定例)	各支部(地区)月2回
	コール作東	(定例)	月2回
	P I G I N	(定例)	月1回
	(全体)	29 4 5	第1回芸能部役員会
		12 3	第2回芸能部役員会
		30 1 26	第3回芸能部役員会
カラオケ部	作東音楽同好会	(定例)	月4回
	粟井カラオケ同好会	(定例)	月2回

部名	グループ名	年月日	内容
工芸部	江見ちぎり絵教室	(定例)	月1回開催
		29 5 26	江見ちぎり絵教室合同研修旅行
		12 3	江見・福山ちぎり絵教室合同親睦会
	福山ちぎり絵教室	(定例)	月1回
	むつみ会	(定例)	月1～2回(原コミュニティ、白水コミュニティ)
棋道部	双山囲碁クラブ	29 8 17	第130回双山囲碁大会(参加者数29名)
		30 1 21	第131回双山囲碁大会(参加者数35名)
情報映像部	お達者ねっと倶楽部	(定例)	毎月第1・3火曜日開催 インターネット・パソコン講座(旧粟井小学校)
手芸部	ビーズを楽しむ会	(定例)	月1回
	妹尾さと子編み物・手芸教室	(定例)	月4～5回

【連盟事業】

年月日	事業名	会場
29 6 11	美作市文化連盟 第10回芸能発表会	大原公民館
7 1	第20回記念美作市囲碁連盟・囲碁サロン「天元」合同囲碁大会	作東農村環境改善センター
	美作市カラオケ連盟 第5回発表会	大原公民館
11 11	第21回美作市囲碁大会	作東農村環境改善センター
19	美作市カラオケ連盟 第6回発表会	英田公民館
26	美作市吟剣詩舞道連盟 第11回発表会	大原公民館
30 3 25	美作市文化連盟文化祭 第6回作品展	B&G海洋センター、作東美術館、バレンタインプラザ

編集後記

今年も「作東の文化」をお届けすることができました。世の中がどんどんデジタル化する中、我々はアナログ作業の末、毎年この文化誌を生み出しています。もちろん、会員のみなさん、また関係者の方々のご協力あつてのこと。心から感謝申し上げます。

さて、挿絵として挿入されている絵画や写真などがカラーになればいいのに……との要望を時々いただいていました。一部だけでも実現できればと検討しましたが、残念ながら今号では難しいという結論になってしまいました。

印刷技術も発達し、インターネットで原稿を送信して制作すれば、予算内でオールカラーの文化誌を作ることも夢ではありませんが、そのためには印刷原稿（版下）の作成を印刷会社にお問い合わせ、編集委員会で仕上げてもらうことが求められます。

パソコンもかなり普及しました。編集委員会に届く原稿の中にはパソコンで作られたものもあるでしょう。そういった方々に協力していただいたり、会員のみなさんの中に「頑張って印刷原稿仕上げてやろうじゃないか！」「カラーになるなら協力してもいい」と手を挙げてくださる方があればオールカラーの文化誌制作再検討ができるかもしれません。

そして、それが実現できたその後には、ページ数を増やし、文芸作品ばかりではなく、写真や絵画、その他いろいろな作品の紹介が掲載できるようになり、より多くの会員のみなさんが参加できる文化誌となるでしょう。

「作東の文化」オールカラー増ページは次号編集委員会に委ねたいと思います。

編集委員会

作東の文化

第44号

平成30年10月1日発行

編集 作東文化協会文化誌編集委員会
(美作市教育委員会 社会教育課)

編集委員 鳥形 初美 小玉 司 小林 昭文
谷口 重人 中田 敏子 新田 祐之
松本 俊明 真野みよ子 春名 貞和
山本進一郎 山本 文子

発行所 作東文化協会
岡山県美作市教育委員会 社会教育課
TEL (0868) 72-2900 〒709-4234
HPアドレス <http://bunka.boj.jp/>

印刷所 株式会社 廣陽本社
岡山県津山市田町22

